



印西市議会議員

# こんにちは！ ますだようこです

series2 vol.21

発行/増田葉子 2020.7.26 印西市内野2-1-6-202 TEL080-5082-0970 Fax0476-46-6809 e-mail/YFA49624@nifty.com  
ホームページもご覧いただけます http://www.masuda-yoko.com

コロナ禍の暑中、お見舞い申し上げます。市議会6月定例会の議案と市政の現状をご報告します。

## 6月定例会の議案

### ①条例の一部改正 11件

新型コロナ関連などの特例措置を反映した市税条例の改定、小規模保育施設の運営基準の緩和、学童クラブ新設に伴う設置管理条例の改定、新たに開発された宅地を編入する地区計画条例の改定など。

### ②補正予算 5件

・一般会計2件／新型コロナ関連の支援事業で、国の10万円給付の対象にならなかった4/28～令和3年4/1までの誕生児に10万円を給付する市単独事業、ひとり親世帯への給付金事業、小中学生に一人1台のPCを整備する事業など、2件あわせて約16億円の増額補正。

・特別会計／国保、介護保険、後期高齢者医療の3特別会計。新型コロナ感染症拡大防止対策として、集団健診をすべて個別健診に振り替える経費の増額など。

### ③契約の締結 1件

木刈中学校の校舎増築工事を3億1,776万円で香取市の石井工業株式会社と契約。木刈中は令和7年度に955人27クラスがピークと想定され、現在の生徒数の1.5倍となる。

### ④財産の取得 1件

消防団の小型ポンプ車を毎年3台ずつ更新している。3台を2,742万円で千葉市の株式会社清水商会から購入。

⑤報告 5件 一般会計、水道事業会計、下水道事業会計の繰越財源の状況の報告。

⑥請願 1件 手賀沼地区における地域農業の将来を踏まえた土地改良施設の更新に関する請願（採択）

⑦発議案 1件 請願採択に伴い国への意見書の発議。

## 最近の話題から

今議会は新型コロナ関連の予算や条例改正が多く、その支援策の多くは広報いんざい等ですすでにお知らせされていることと思います。そこで今号では議案に関連しませんが、この7/1から有料化が義務付けられた「レジ袋」にちなんで、「プラスチックごみ(資源)」の現状を整理してご報告したいと思います。

無くなって改めて便利さに気づく。そう感じている方も多いのではないのでしょうか。コロナだけでなく、こちらでも「新しい生活様式」が求められているようです。

印西市の「ごみ減量化計画」によると、平成19年度から「エコバッグ推進」が始まっています。レジ袋を減らす取り組みはすでに13年行われているわけですが、プラスチックごみの状況がどう変化したのか、国でも市でも、ほとんど検証されないまま有料義務化となりました。

レジ袋はプラスチックごみのわずか2%と言われ、「なぜレジ袋だけ？」という意見がネット上でも見られます。しかし、手法はどうか、プラスチックの排出を国全体で減らしていかなければならないのは、動かせない事実です。市としても、「国が決めたことをやればいい」ではなく、これまでの取り組みを検証し、どういう施策が有効か、リサイクルの現状を踏まえて考えていく必要があると思います。

## プラスチックごみ(資源)のデータ

まず、私たちが一日にどのくらいのプラスチックを排出しているのか、HPで公表されている数字で推計してみます。

表1 印西市のプラスチック排出状況

種別	排出量 (kg)	一人あたりの排出量	
		年間 (kg)	一日 (g)
可燃ごみ	3,628,085 ※1	35.8	98.0
不燃ごみ	927,780 ※2	9.1	25.1
粗大ごみ			
ペットボトル	276,900	2.7	7.5
容器プラ	903,300	8.9	24.4
計		56.6	155.0

出典：平成30年度印西市一般廃棄物処理概要

印西地区環境整備事業組合「ごみ処理基本計画」

## 議会報告会のお知らせ

6月議会の報告と自由な意見交換の場です。

日曜日の午後です!

8月2日(日) 13:30~16:00

中央駅前地域交流館2号館3階会議室3

館の感染対策に従い、事前に1号館で検温等を済ませてから会場にお越しください。

表2 資源プラスチックの行方

	収集運搬量	出荷・引き取り量
ペットボトル	276,900	265,120
容器包装プラ	903,340	814,520

単位：kg/年

出典：平成30年度印西市一般廃棄物処理概要、容器包装リサイクル協会 HP

可燃ごみは毎年市内6か所の集積所を選定して「組成分析」をしています。その結果によると、可燃ごみの31%が紙類、21%がプラスチック類でした（うち紙類の半分、35%のプラスチックはリサイクル可能とのこと）。

表1では組成分析の割合から可燃ごみとして捨てられたプラスチック量を推計しました（※1）。また、不燃ごみと粗大ごみは破碎処理の後、金属資源を拾い、残りは焼却か埋立てされますが、おそらくプラスチック類は焼却されているだろうと想定し、その割合から推計しました（※2）。それに資源プラスチックを足すと、市民一人あたり毎日155gを排出していることとなります。ペットボトルは平均して1本35g、レジ袋は約5gです。換算すると、毎日毎日ペットボトル4本、レジ袋3枚くらいを捨てていることになるでしょうか。表の数字をみて、どの辺りのプラスチックを減らすことができるか、少し立ち止まって考えていただければ幸いです。

## プラスチックリサイクルの状況

次に「資源」のプラスチックがどのようにリサイクルされているのか見てみます。

表2を参照してください。黄色の指定袋の容器包装プラスチック（容プラ）とペットボトルは、収集車で運ばれ中間処理業者に集められます。ここで指定袋をとかれ、容器包装リサイクル法に適合したプラスチックになるように再分別されます。汚れがついていたり匂いが残っているもの、容器包装でないプラスチックを、人の目で見つけ取り除きます。

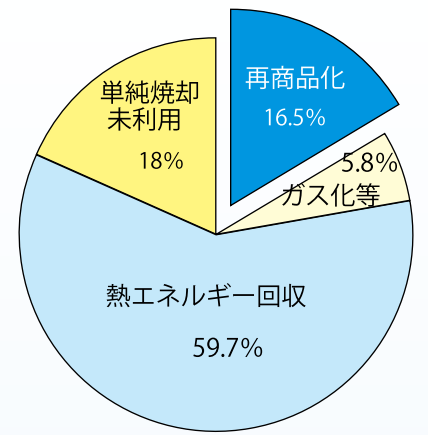
ちなみに指定袋は容器包装ではないので不適合物としてここで取り除かれます。レジ袋は容器包装です（そもそも指定袋でなくレジ袋でよかったかも…）。

再分別された容プラは、圧縮梱包され、容器包装リサイクル協会から委託された再商品化業者に引き渡されます。さらにそこでも、再商品化が可能なプラスチックかどうか、もう一度手選別されます。

大手コンビニ等が採用している、有料化の対象外の海洋由来・植物由来のレジ袋は、再商品化に向かないプラスチックとされていますので、おそらくここで取り除かれ、焼却さ

れるプラスチックになるのではないかと思います。

これほど何度も分別・選別を繰り返しても、リサイクル商品の原料となるプラスチックの割合は、右図の通りわずか16.5%で、残りは基本的には燃やすことでリサイクルされているのが現状です。



一般社団法人プラスチック循環利用協会 『プラスチックリサイクルの基礎知識2020』より

## リサイクルコストから見ると…

プラスチックは、人の手による分別・選別が何度も必要です。それだけ人件費もかかりコストは高くなります。

表3は、資源物ごとにリサイクルコストを算出してみました。プラスチックが圧倒的に高いのがわかります。さらに、報道のとおり、これまで海外に資源として輸出してきた「汚れたプラスチック」は輸出できなくなりました。本来、国内処理が当然のことですが、リサイクルコストがますます高くなるのは間違いありません。

印西市は今、新しいごみ処理施設の移転・建替えをしています。焼却施設は今は「熱回収施設」と呼ばれ、焼却熱で効率よく発電することが国庫補助金の条件にもなっています。

今後は、リサイクル市場の動向とコストを見ながら、プラスチック資源は早い段階で焼却するのも一つの考え方かもしれません。もちろん排出そのものを減らす努力が大前提ですが、全体として合理的なリサイクルを目指すべきだと思います。

国の「プラスチック資源循環戦略」では、プラスチックの排出量を2030年までに25%抑制する目標を掲げています。まずは、毎日4本のペットボトルを3本にし、3枚のレジ袋を2枚にする努力を、それぞれがしていくしかありません。

表3 資源物ごとのリサイクルコスト

資源物	収集量 (kg)	収集単価 (円/kg)	分別・選別費 (円/kg)	売却額 (円)	実質支出 (円)	リサイクルコスト (円/kg)
ビン	684,990	18.48	27.96	0	31,715,329	46.3
カン	294,250	38.5	30.58	4,869,472	15,457,318	52.5
ペットボトル	295,420	68.64	31.24	13,885,800	15,620,750	52.9
容器プラ	932,380	25.5	88.94	0	99,742,800	107.0
紙類	1,674,500	23.1	0	7,575,006	31,105,944	18.6
布	253,140	23.1	0	278,212	5,569,322	22.0

令和元年度の実績・契約額より